

「奏で継ぐヒロシマ〜被爆を生き抜いた2つの楽器〜」 感想文コンクール

大賞作 「奇跡のピアノとバイオリン」 桂菜奈

私はバイオリンを習っていて、クラシック音楽や作曲家に興味があります。そして、演奏することが大好きです。

母はピアノを弾くのが好きで、一緒に練習したり、一緒に発表会に出たりすることもあります。そこで、このピアノとバイオリンの音色を聴いてみることにしました。

まず、戦争で、たくさんの方の命がうばわれ、何もかもが失われた悲しい状況の中でこの「明子さんのピアノ」と「パルチコフさんのバイオリン」が生き残ったことにとってもおどろき、生命力を感じました。また、二つの楽器の音色は、私たちに大切な事を語りかけてくれているようなやさしい音で、まるで生きていくかのように思いました。

わたしも、毎日バイオリンをひいているとまるで、楽器が生きているように感じるがあります。また、やさしい気持ちで弾くとやさしい音を出してくれます。

だから、パルチコフさんや明子さんも、きっと、楽器に色々な思いをこめて、大切に演奏されていたのだと思います。そして、この楽器たちは、私たちに、戦争のおそろしさを伝えるために、二人のかわりに生きていくんじゃないかなと思います。

この二つの楽器が私たちに教えてくれたこと。それは「二度と戦争なんてしてはいけない。」

ということです。一発のばくだんで。一しゅんの出来事で。たくさんの方の命がうばわれ、幸せも、思い出も、希望も、何もかもが失われました。

人は争うために生きていくわけではありません。幸せを分かち合うために生きていくのです。戦争なんて、何の意味もありません。わたしたちは、この二つの楽器から学んだことをいつも心にとめ、そして、後世につたえていくことが大切です。

わたしは毎日、当たり前のことのように、勉強したり、テレビを見たりしていますが、これらのことは奇跡なのです。生きていくだけで、奇跡なのです。

だから、今、生きていくことに感じやして一日一日を大切に生きていこうと誓いました。そして、明子さんのピアノと、パルチコフさんのバイオリンの優しく美しい音色から学んだことを心にとめて、戦争でたくさんの方の命がうばわれたこと、生きていくだけで奇跡なんだということを、次の世代に伝えていきたいと思えます。明子さんのピアノとパルチコフさんのバイオリンへ。二人の代わりに必死で生きのびてくれて、本当にありがとう。